

平成 22 年度第 1 回薬学教育 FD/ICT 活用研究委員会議事概要

I. 日時：平成 22 年 7 月 16 日(金) 午後 3 時から午後 6 時 10 分まで

II. 場所：私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 出席者：松山委員長、黒沢副委員長、大谷委員、大嶋委員、高取委員、松野委員、
梶原アドバイザー、福室アドバイザー
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、渡邊職員

IV. 議事概要

1. 学士力の実現に求められる ICT 活用の検討について

事務局より、以下のような説明があった。

「今までのようなコンテンツのみではなく、学びの動機付けという段階で ICT を活用する。加えて PBL のようなネット議論をする。例えば博士過程の学生をファシリテーターとして、雇用して講義を推進する。ネット上で学びのプロセスをテーマとして、グループ討論し、全員でその情報を共有し、幅広い観点から動機付けの展開をはかる。22 年度は「学士力」、23 年度は「教育力」についてまとめ、24 年度までに報告書を作成する。」

その後、委員の間で方法論について意見交換がなされた。

- ①mixi や twitter のような議論の場ではなく、最低限のレギュレーションをもとにするのはどうか。
- ②実務実習で各機構が利用しているシステムを利用するのも一つの手である。
- ③iPad を利用したシステムを構築していく。
- ④アーツをもとにした講義展開をする。講義形式ではなく、セクションという形式で実施する。院生がファシリテーターとして、質問しながら教えていく。

次に、モデルコアカリキュラムの中で、どの分野について検討するかについて討論がなされ以下の 3 点に絞った。

- ①実務実習に関する内容をフィードバックする場合、継続的・形成的な評価をするために活用する。(学生の問題点の抽出)
- ②総合問題を提示し、クラスター分析をすることにより、学習効果をはかり、教育につなげていく。(個々の学生の理解力の解析)
- ③学びの動機付けのためのリメディアル教育で構築していく。

2. 平成 22 年度薬学 FD 調査について

資料に基づいて、精査し、変更すべき箇所は変更した。その中で、知的所有権についてはその重要性を認めているもののその深さについては今後の課題となることを申し

合わせた。特許についてはそこまでは触れておらず、コピーライトについてのみ言及することとした。到達目標 2 の到達度②を「情報限の信頼性を評価できる」に修正することとした。また、教育内容の①を「収集した情報をすべてあげて適切か適切でないかを振り分けて判断した根拠を列挙させる。また、収集した情報について相反する内容があるかを調べて列挙させ、学習させる。」に修正した。その他、提出意見を一つ一つ考査し、資料の追加校正あるいは表現方法を修正することとした。未解決の部分は、時間の関係上、次回への持ち越し課題とした。

3. 次回までの宿題

次回の開催日までに、各委員が一つのテーマについてより具体的な案を持ち寄ることとした。

V. 次回の開催日時

日時:未定

場所:私立大学情報教育協会事務局会議室

以上